

令和5年度 各務原市高齢者虐待対応事例報告会

グループワークシートまとめ

【原文のまま掲載しています】

- ① 虐待（疑い）ケースに関わってどう感じましたか。疑問・不安はありますか。または、事例を聞いてどのように感じましたか。
- 1 グループ
- ・通報義務→一人で抱えず、包括や事業所内で話し合う。
 - ・虐待という言葉に振り回されないよう対応。
 - ・障害分野→子供に対して、母に対して、叩くこともあるが、家族のコミュニケーションだったりするので、どこから虐待になるのか。見る人と視点によって変わってくる。
 - ・父と利用者→父の強い口調でおびえていたりする。事実が本人も分からないと事態が見えない。→見守り→ケアマネに報告→見守っている。
 - ・夫が虐待疑い→警察で保護→市包括介入→サービスの利用で落ち着いている。
 - ・ネグレクト？→自宅でいるとおむつを家族が変えずヘルパーに依頼あり。本人も望んでいない。→判断に悩む。
 - ・本人知的障害 娘と同居 転倒が多いが、あざが違うところにある？本人は事実が分からない。関係性の部分？
- 3 グループ
- ・受け取り方によって言葉でも虐待。判断が難しくなっている。
 - ・家族の在り方。イレギュラーな虐待（これちょっと違う）
 - ・ケース検討しながら、アルコール依存症の人をどうにかしなければと対応したことがある。
 - ・家族がなかなか承諾しなければ・・・(金銭管理)
 - ・金銭的虐待と管理することの項目。
- 5 グループ
- ・虐待は関わったことはあまりないが、放棄というのか各務原病院（精神科）さんの方でお世話になった。介護放棄をされていた割には、息子さんが協力的でスムーズにできた。
 - ・主介護者の娘さんが家族と関係性が昔から悪かった。娘に会いたいと言われても併せたくなかった。会わせられないのは、かわいそうだが。グループホームに入居。人と関わりがないという虐待。会えないけど影ながら手助けしてくれた。家族・ケアマネとの信頼関係があって、家族間の間に入って良い関係性をもてたのかもしれない。
 - ・大変な方を持っていないが、グループホーム。愛知県のケアマネ。奥様が亡くなられた後、お父さんと娘さんの関係性が悪くなった。認知↑。娘さんがお父さんを捨てたような発言。民間の身元保証など入れた。ご本人グループホームに入りたくなかったが、ガス、

火の元の心配もあり、グループホームに入れてしまった。娘さんとの関係が良かったらこんなにも早く入居する事はなかったと思う。自宅にいと混乱してしまう。動けるうちにと入居を勧めた。ヘルパーは入っていた。周りの職員の意見があり、スムーズに進められた。

○6 グループ

・9月に社協、市と話し合い金銭搾取。3人仲悪い。長女不仲、長男電話するな、次男が身元保証→金銭搾取。弁当代、デイ利用料金未払い→包括に相談。本人も次男にお金を渡したい。日常に助けてもらおう→支援者の意向一致。本人と次男嫌。年金入る月に2ヵ月分支払い。弁当6ヵ月未納→断り。別の所をすすめるも本人拒否。次男に食料をもっていくよう依頼→連絡取れない。インスタント味噌汁にご飯入れて食べる。デイの食事は待ちきれず食べる。短期間で結果が出るケースもあるが、このケースは長期間関わるが変化なし。

→適正な生活できるか？本人が渡したら搾取ではない。年金は2ヶ月で19万。施設は年金だけでは×。減免がでたらOKか？特養OKか？本人は嫌。

→尾崎団地。この誰の所にも行きたくない。ショートステイは嫌。デイはOK。クーラーがついてない。次男はその時はOKしても行かない。管理者、社長、市と話してもその時は長い返答で実行無し。

→本人次第であり、日常の説明も覚えていない。サインはできる。返答OK。措置×。入所も話があったが、月1万円足りず、誰が出すのか、次男がお金をもらっているのを知っており、「知らん」という。次男が自分の通帳から引き落とすようにと言ったが手続き(-)。他の兄弟が親を心配しない→かわいがられてた次男のみ。長男と16歳違う。

○7 グループ

・疑いで終わってしまっている。報告止まり。

・夫婦 できなくなってきた妻への愛情から、もっとしっかりしてほしいという思い。包括への相談見守り。あざ、夫へ直接介入しようとして止めてもらった。→落ち着いた。

・デイ 一番気付き、状態確認しやすい立場。→ケアマネなど関係者に必ず相談している。養護者がどう考えているか。

・障害 子ども 通報早い スピード勝負 根底にあるのは愛着形成の問題ではないか。将来的にあらわれてくる可能性。障害の保護施設は県の管轄。

・市：慈光苑→要介護者でない方が基本。

○8 グループ

・長男が熱心なあまり暴力、かっとなった。どこかに相談することはなかった。大げさにしてほしくないとの意向。→長男の妻より通報有。→ショート→特養。長男はほっとしたと思う。厳しく育てられた。負の連鎖。

・高齢世帯→支援→介護 デイに出す 夫 長続きしない「まあええわ」 訪問→傷あり 包括同行訪問 サービス再開するも夫が迎えに行く 特養に優先入所できた。

・認知症 (+) 息子がイライラ。一緒にいる時間が長い→サービスに繋げる 認知症の症状をしっかりと伝える事が重要。入所はお金がかかる。金銭的な問題あり。

・あまり対応したケースはない。包括と一緒に動いた。

・ゴールは分離、最後は施設入所。

・家族間の調整は本当に難しいです。

・対応によっては逆切れされることもある。包括の支援ありがたいです。

○9 グループ

・一人で抱え込まない。2人で面談するなど。終結するまで不安が続く。

・相談するタイミングに悩む。その方の生活や家庭環境によって虐待のとらえ方が違う。通報の義務。市が判断されるスピーディに対応。人の思い後から分かる事もある。疑ってかからないといけない所が辛い。お金の使い方とかエスカレートすることが怖いとか子どもがかわいいという思いから大事にしたくない。→本人に被害が増えないようにと安心してもらえるよう声掛け。

・デイ、ボデイチェック怪我が見つかる。ケアマネに連絡し、変化を観察している。依存しているケースが多いように見える。

・身元保証の人がしているケースだと、サービス受入れが難しい。

○10 グループ

・虐待ケースで施設対応した(病院の医師がみて判断。家族には伝えていない)息子さんと2人暮らし。転倒をよくしていた。

・家族が熱心で本人が痛いと言っているのに動かそうとした。

・包括が施設をラウンド(?)していた。通所であぎを見つける。息子さんと2人暮らし。認知有。娘さんと一緒に話をした。通所を休むようになり、あぎがひどくなってきた。訪問も拒否するようになった。→息子さんに介護が大変ではないかと声をかけショート、入所対応となった。息子さんの口調が少スキつい→加減が難しい。

・認知、うつがあるケース何かあるとすぐ警察に電話入れる。息子さんも強い人。やりあっている。「頭をごつかれた」と本人が言う。体調を崩し入院。退院後介護できない。一晚ほかってあった。ヘルパー対応。→これは虐待になるよと息子さんと話をした。

・あぎ→虐待か転倒か分からない。

・本当に虐待か?両方の意見を確認する必要。

○11 グループ

・虐待者の裏表(優しさ暴力)本人はそんなつもりはない。

・報告に至らない。スムーズに動けない。

・虐待を知るきっかけ、発言が難しい。「息子が怖い」と言われる方がいる。デイでの入浴無し。暴言(養護者に対して)→虐待に発展してしまうのではないかと不安。報告する?Fa間の関係があると虐待の見分けが難しい。早朝の対応が難しい。

・本人が通報を拒否。Fa関係が薄い。

- ・報告、相談のタイミング。
- ・虐待で離す→そのまま亡くなられてしまった。

○グループナンバーなし（2か4）

・どこまで事実か分からない。本人の作り話か、家の人がかくしているのか？関わった人が連絡し合って共有して情報収集している所。息子さんと本人。息子が叩く。本人忘れる→ヘルパーさんが見た。本人も私も頭にくると息子をたたく。私も怒鳴るし……。息子もストレスになっている（仕事止めている）父の残した年金で生活できている。（半日デイ2回利用している）今後要注意。

・大声で喧嘩？娘さんと認知症のお母さん 近所から通報が入る。お互いに言い返すが、やり取りを聞いていると仕方がないのでは……。別の所に住んでいるのに朝晩訪問して世話をしている。娘さんの声大きい。一生懸命やっているので、少し声を小さくしようと話している。嫌いになる前にグループホームを勧めている。介護離職をしようとしている。

・娘に引きずり回されたと言われる（父親）。時々傷が見られるのでケアマネさんや他に連絡する。介護者さんに対して精神面に対してねぎらったりしている。

・お父さんが認知の方（お父さんは言えないが）娘さんからやってしまったと言われる。（叩いちゃったとか？）娘さんのケースワーカー等に相談したりしている。

・介護者が男性だと大きな声になる。どちらかが本当なのか聞取りが難しい。認知症。

○グループナンバーなし（2か4）

・家族への対応に不安（何か対応を間違えるとまずい）自分に返ってくる。行政の対応はどこまでしてもらえるのか？

・事実確認をするときにどう話して確認したらよいだらうと不安になった。

・打撲等の跡があれば分かりやすいが、それ以外の声掛けが難しい。虐待している人への声掛け、話し方した事実を分かってもらうには！

・事例に対しての手順、ケースによってスピード感が違うのは？

・分離したが、共依存で元に戻ってしまう。どうしたらいいか？

・性格的に話がきつい人の虐待の判断が難しい。ケースの判断のライン。

② 高齢と障がい分野の連携が必要だと感じるケースがありますか。【虐待（疑い）ケース
以外も含めて】

○3 グループ

・高齢、障がい者が一家にある中で、

※障害のある息子が認知の出てきた母親に対して今までやってもらえたことをやらせなくなった事で、暴力をふるう→母親と分離→その後母親は身体が弱り入院。相互が連携することが必要だと思う。

○7 グループ

・幼児期、学童期の虐待の報告体制は迅速で、県がまとめて指示。→各識者が対応。

・高齢福祉→協議する機会もあるので、フローチャートが少し違うように感じた。

○8 グループ

・ケースによっては包括への相談支援を求めることもある。高齢の親、障害がある子ども。

○11 グループ

・介護者が障がいをお持ちの方→本人が同意しないと基幹に相談できない。

○グループナンバーなし（2か4）

・本人精神、娘さん療育、娘さんから暴力→包括と協力して聞き取りをしっかりと聞く。児童虐待も入ってきた。子育て支援も色々な連携必要。

・アルコール依存の息子さんの支援は誰？

③その他（虐待に関する事、高齢と障がい分野の連携に関する事等ご自由に意見交換）

○3 グループ

・さまざまなケースに関わり、他職種と連携しながら行う。